

社内や地域を元気に!

# 今、求められています。 企業や団体による 結婚応援

-実践者が語る結婚応援の取組-



## なら結婚応援団登録団体一覧

※登録団体は、平成29年8月末現在時点のデータを掲載しています。  
なら結婚応援団は、奈良県が結婚を応援する企業や店舗、NPO等(結婚応援団員)と協働し、結婚を希望する独身男女を応援するものです。

分野	団体名	所在地	分野	団体名	所在地
飲食店関係	フレンチ&イタリアンバル Copine	大和郡山市	地域団体	内牧地域まちづくり協議会	宇陀市
	洋食レストラン レイペニング	橿原市		奈良・中南和町づくりクラブ	大和高田市
	カフェ ジータ	大和郡山市		人々路の社(トトロの森)	田原本町
	喫茶去庵	奈良市		大和棟古民家JINYA	宇陀市
	Cafe Bar RISE	香芝市		がんばろえ!かみきた	上北山村
	リストランテ ベック	奈良市		長滝復刻堂本舗	天理市
	(株)グルメジャパン 西大和さえき	河合町		三輪の月	桜井市
	野菜ダイニング菜宴-Saien-	奈良市		AREA FREE	奈良市
	ザカントリーキッチン だいこくや	橿原市		田中出版社 奈良営業所	奈良市
	株式会社 菊水楼	奈良市		ハヤ イングリッシュアカデミー	王寺町
	cafe 椰の森	橿原市		有限会社 ノア	生駒市
	ミュージックカフェアンジェス	橿原市		アクティブダンススタジオ	奈良市
旅行会社	奈良交通株式会社 本社旅行センター	奈良市	その他イベント・文化活動等	やまとびとのこころ店	桜井市
	亜細亜交流旅行	奈良市		アイム合同会社	生駒市
NPO法人	特定非営利活動法人 うだ夢創の里	宇陀市		LA REINE	橿原市
	特定非営利活動法人 生き生きライフ推進協会	奈良市		ARIGATO FACTORY	生駒市
	NPO法人 日本結婚教育協会	大和郡山市		株式会社 ル・シェル	奈良市
	特定非営利活動法人 奈良NPOセンター	奈良市		株式会社 和創	奈良市
地域団体	飛鳥RUN×2リレーマラソン実行委員会	橿原市		株式会社 関西工務店 ライフアップセンター	大和高田市
	飛鳥トレッキングガイドサービス	明日香村		町屋の宿 宮	奈良市
	光の祭典実行委員会	天理市		ギャラリーと学びの町家 月眠	奈良市
	はしお元気村	広陵町		奈良町 あしびの郷	奈良市
	一般社団法人 吐田郷地域ネット	御所市		個性心理学研究所グラシアス支局水倉	天理市
	赤糸の小道・実行委員会	桜井市		畑ヘルパー倶楽部	奈良市
	ふるさと元気村	宇陀市	公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ	奈良市	

奈良県は、「社会全体での結婚応援」を推進するため、民間団体との共同婚活イベントの実施や企業・団体等への取組提案、官民ネットワーク会議の運営などを行っています。

LINEやメルマガで婚活情報をお届け

LINE@  
友だち登録はこちら  
ID@naraken-kekkon  
で検索!



メルマガ登録はこちら

携帯電話の機種によっては読み取れない場合があります。その場合は「なら結婚応援団」のHPからご登録下さい。



お問い合わせ

〒630-8501 奈良市登大路町30  
奈良県子ども・女性局女性活躍推進課  
TEL.0742-27-8603 / FAX.0742-24-5403 / E-mail:nara-kko@office.pref.nara.lg.jp  
https://www.naradeai.pref.nara.jp/



平成17年に合計特殊出生率が最低を記録し、その後は横ばいや微増傾向が続いていますが、平成28年の全国出生数が100万人を割り込むなど、少子化の傾向は続いていきます。奈良県内に目を向けると、男女ともに未婚率が高く、都道府県別で比較すると全国4位となっています。それに伴い、合計特殊出生率も全国41位(図1)の低さとなっております。未婚率と合計特殊出生率は相関関係が高いと言えます。ただ、奈良県とひと口に言っても、地域によって事情は様々です。山間部は未婚率が高い傾向にあり、逆に通勤や子育て

「婚活」という言葉が定着し、奈良県でも結婚を希望する人を支援する取組が行われています。奈良県立大学と桜井市が協働する「さくらい花咲かプロジェクトチーム」の活動の一貫として開催された婚活イベント「めん恋2016 in 桜井」もその一つです。

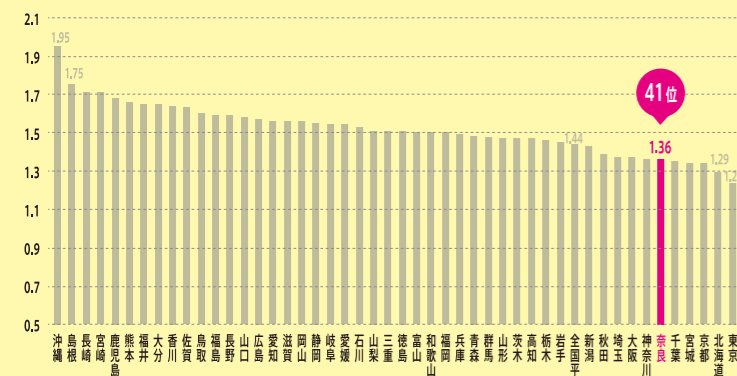


図1 合計特殊出生率



奈良県立大学 梅田直美准教授

「婚活」という言葉が定着し、奈良県でも結婚を希望する人を支援する取組が行われています。奈良県立大学と桜井市が協働する「さくらい花咲かプロジェクトチーム」の活動の一貫として開催された婚活イベント「めん恋2016 in 桜井」もその一つです。

(奈良県立大学 梅田直美准教授談)

# 「少子化・未婚化」と「婚活支援」



に便利なベッドタウンと呼ばれる地域については、一概に少子化・非婚化が進んでいるとは言えません。結婚したら出ていく人が多いエリアもあれば、子育て世代が多く転入するエリアもあるのが現状です。

## 県内における婚活支援の事例

学生が若者の目線で街コンを主催するというもので、縁結びで有名な大神神社への参拝や特産の三輪そうめんの手延体験、地元のみ古民家カフェでの交流ゲームなど、桜井市ならではの魅力を感じてもらえる出合いのイベントとなりました。自治体と民間が協働する婚活サポートとしては、「なら結婚応援団」が挙げられます。奈良県が地域の企業や店舗、NPOなどで構成される結婚応援団員と共に独身男女を支援するプロジェクトで、応援団員として登録している企業や団体が出

会いのためのイベントを主催し、奈良県がイベントの告知や情報発信を担っています。

## “出合い”をキーワードに地域の魅力発信を

既存の価値観が揺らぎ、多様な生き方がある社会において、非婚化が悪であるという考え方は時代にそぐわないものです。しかし、個々の生き方を肯定しながら、結婚を選択したいという願いを持つ人をサポートしていくことは大切です。結婚したいと願う人が主体的に情報にアクセスできる仕組み作りが必要でしょう。サポートする側は、結婚自体を目的にするのではなく、「婚活」を一つの切り口として多くの人が出会う場を提供することは、若い世代が今までになかった地域の魅力を発見することにも繋がります。若い世代を呼び込む試みは、地域経済の活性化や地元企業のイメージアップはもちろん、地域の新たな魅力作りにも大いに役立つものとなるはずです。

社内や地域を元気に!

# 今、求められています。企業や団体による結婚応援

-実践者が語る結婚応援の取組-

## 日本における少子高齢化の現状と未来への影響

- 平成24年1月人口推計によると、2060年に生まれる子ども数は現在の約5割、高齢化率は現在の約2倍(39.9%)
- 平成28年の全国の出生数は976,979人で初めて100万人を割り込んだ
- 平成17年から日本の人口は減少傾向に入っている
- 奈良県でも平成28年の出生数は9,430人と前年比4.1%の減少となっている

このような現状から持続可能な社会保障制度の構築、労働力の確保など、引き続き少子化対策の充実が求められている。

## 奈良県として、地域の一員として出来ること

企業や団体のみならず、従業員や地域に元気を感じることはありませんか?、また人口も減少して行く中で、昨今の人手不足や将来の存続に不安を感じていませんか?企業や団体ができる結婚応援の取組についてぜひ考えてみてください。結婚応援の取組には様々な側面があります。従業員などの家族形成の第一歩である結婚の希望を応援することは、企業や団体自体にとってのメリット(認知度アップ、企業や団体内の活性化、人材育成、雇用定着、CSR活動の充実など)があるだけでなく、広く地域活性化や少子化対策といった社会全体の課題解決にもつながります。県では、社会全体での結婚応援を推進しており、企業や団体による結婚応援の取組が広がっていくよう支援していきたいと考えています。

## INDEX

- |      |                      |       |                      |
|------|----------------------|-------|----------------------|
| P1   | はじめに                 | P5-6  | 婚活イベントで地域の活性化を       |
| P2   | 「少子化・未婚化」と「婚活支援」     | P7-8  | 有識者が語る結婚応援の在り方と意味    |
| P3-4 | 企業同士の交流会による新たな出合いの創出 | P9-10 | 婚活イベントとしての企業交流会(福井県) |

# 梅乃宿酒造

UMENOYADOSYUZO

## 企業同士の交流会を “新たな出会い”の きっかけに。

「梅乃宿酒造」と「関西電力 高田事業所」とのコラボ異業種交流会で、新たな出会いと交流を創出。



梅乃宿酒造  
福山 和子 さん



関西電力  
奥田 幸司 さん



「五感で感じる酒蔵体験」が開催された梅乃宿の酒蔵。



関西電力の社内広報誌にも、地域社会、クライアントとの活動として、その様子が取り上げられた。

奥田氏の選考・呼びかけのプロセスも重要なポイントであった。

### 地元企業同士の異業種交流で 新たな“人の繋がり”をつくる

『梅乃宿酒造』と言えば、創業120年を超える県内屈指の酒造メーカー。新しい酒文化を創造する蔵を企業のテーマとして掲げ、日本酒造りという伝統を守りながらも、時代やニーズの変化を捉えたさまざまな挑戦を続けてきた。そして今や、奈良県が世界に誇れる酒蔵へと成長している。

そんな同社が、社内の独身女性スタッフを参加者の中心として募り、とある催しを行った。『関西電力 高田事業所』との『異業種交流会』だ。この会の目的は「もちろん、まったく別の分野で働く者同士が集まり、互いの見聞を広げて自らの仕事に生かそう」というものなのだが、会の発案者である同社戦略推進部・福山和子部長には、もう一つの狙いがあったという。その狙いとは「ずばり、出会いの場をつくることだった」。弊社には今、いわゆる「適齢期」の女性たちが多く在籍しているんです。だからこういった異業種交流会を「男女の出会い」のきっかけとして捉えても良いんじゃないかと思っただんです。

### 会社が婚活を応援すれば 結婚と離職が直結しない

葛城市を拠点とする『梅乃宿酒造』。国内のみならず世界からも評価される同社の酒は、この土地だからこそ造れるものだ。これはつまり、何十年の月日が経とうとも、経営を続ける限りはこの地を離れることがない企業である、ということ。その一方で、結婚を機に県外

とても大切なことだと考えています。

### ただ集めるだけでなく 人を繋げる工夫が必要

今回の異業種交流会は『梅乃宿酒造』からの依頼により実施されたもので、2社ともが社命として参加者を募ったのではなく、あくまでも自由参加のものだった。ただし、参加申し込みには所属長の推薦という形にした。実際『関西電力』では、会の幹事役となった奥田幸司氏（奈良支社）が高田事業所の各所属長に話を持ちかけ、所属長が人選し、さらに個人の意向を確認して交流会への参加を呼びかけていったという。このようなプロセスを踏むことで、異業種交流会としての価値と出会いの場としての価値の向上を図ったのだ。

実際に行われた交流会には、幹事役を除くと『梅乃宿』から20〜30代の女性8人・男性4人、『関西電力』からは20〜40代の男性11人・女性2人が参加した。会の前半には『梅乃宿』による「五感で感じる酒蔵体験」を実施し、後半は同社物流センターの敷地内の一画でバーベキューを行ったそう。 「思っていた以上に盛り上がり、また輪になって互いに仕事のこと等を聞き合うなど、異業種交流会としては目的通りの成果でした」と福山部長。奥田氏も、「連絡先を交換している姿も見かけましたし、これから何かしらの発展があるのかなあと思っています（笑）」。また、『梅乃宿酒造』吉田佳代社長は今回の取り組みについて「全くの別業種の方々と知り合うことで、知り合いの幅を広げてほしいというのが一番の想いです。知り合いの

へ転居することになり、職場を離れざるを得ない者がいる。これは当然仕方ないことなのだが、何年も経験を積んだ人材が結婚を理由に辞めていくのは、おめでたくもやっぱり惜しいというのが企業としての本音だろう。また、このようなケースで離職する従業員本人にしても、慣れ親しんだ環境をあとにすること、また培った知識や技術を生かせなくなることは、やはり残念なことであるはずだ。しかし、もしも地元で暮らす者同士が出会い、そして結婚するのであれば、このような形で離職者を少なからず減らすことができるだろう。「企業が社員の婚活を応援することの意義は、このあたりにあるようだ。また『梅乃宿酒造』には、働くことにおいて「男女平等」の社風がある。結婚や出産、育児などによる働き手の環境の変化にも、十分対応できる体制が整えられている。

実際のところ同社では、産休育休後に復帰する従業員がほとんどで、女性スタッフが結婚退職してしまうことに危機感を覚えることはほほえないそうだ。このような平日頃からの職場環境づくりもまた、企業の婚活応援には必要なことだろう。「もちろん弊社は、社員に向かって、恋愛も結婚も地元でしてくださる“なんて言うつもりはありません。今回はたまたま、女性スタッフの多い私どもと男性従業員が多く事業所も近い『関西電力』さんとの交流の場を設け、それを人と人との出会いの場としても捉えても良いんじゃないかと思っただけなんです。でも実際、男女を問わず結婚後も職場に活躍の機会があり、またいつまでも働き続けられる環境を会社として目指すことは、我々のような地元密着企業には

幅が広がることで、各人の幅も広がると思っています。その中で、自然に交際までつながったら良いかなと笑」と話す。



梅乃宿酒造 吉田社長

恋愛や結婚はあくまでもプライベートなもの。婚活応援と言っても、企業がどこまで介入するかは難しいところである。しかし、異業種交流会を実施し、人と人との出会いのきっかけをつくることにおいては、従業員の見聞を広げ、その後の業務に何かしらの形で生かしてもらうための事業の一環と考えることができるだろう。今回の『梅乃宿酒造』と『関西電力 高田事業所』による取り組みは、「企業が社員の婚活を応援する」ことの一例となりそうだ。

**企業プロフィール**

梅乃宿酒造株式会社  
<http://umenoyado.com/>  
 奈良県葛城市東室27

関西電力株式会社 高田事業所  
<http://www.kepco.co.jp/>  
 奈良県大和高田市東中2丁目1番1号



奈良東商工会青年部  
西田 穂積 さん

まずは自分たちが本気で取り組むことで、周りにもその活動が認められていき、結果的に大きな流れを作ることができた。



奈良東商工会青年部  
久保 州平 さん

自分たちの地域を守るうえで、その地域住民にも今一度自分たちの住む地域の良さを再認識してもらえたら。



奈良東商工会青年部  
辰巳 真樹 さん

婚活イベントが地域の広報的な部分も担ってきているとのことで内外での期待も大きくなってきている。



# 奈良東商工会青年部

NARAHIGASHI YOUNG ENTREPRENEURS GROUP

『婚活』で地域を元気に！  
住民が一体となって  
“出会いの場”を提供。

奈良東商工会青年部の企画した、“いちご狩り”や“カレー作り”婚活イベントで地域全体に活気を

企業が取り組む結婚応援事例 02

過疎化が進む地元を  
自分たちで何とかしたい！

奈良市の北東部に位置する、旧都祁(つげ)村。全国的に見ても歴史的価値の高い重要文化財が多く点在しており、豊かな自然も広がる風光明媚なエリアであるが、以前から過疎化や住民の高齢化が問題となっていた。そんな中、奈良東商工会の青年部が先頭に立って2016年から婚活イベントに取り組みようになった。そこで、奈良東商工会青年部部長の辰巳真樹さん、副部長の久保州平さん、西田穂積さんに婚活イベント開催の経緯をうかがった。「場所柄 田舎なので出会いの場も少ないですし、私の周りの独身男性を見ていると中々自分たちから積極的に出会いの機会をつくりたいという声が出てくる人が多くいるように感じました。」と辰巳さんは話す。



まずは参加してもらって  
出会いのきっかけをお手伝い

正直結婚をしない本人に対しては好きにすればいいと思いますが、そのお父さんやお母さんのことを考えると、何とかしなければ

加が増えたという。「2回目はフェイスブックを見たという大阪や三重からの参加者もいましたし、地元の方からの口コミを聞いて参加したという声をたくさん頂きました」と、少しずつ手ごたえを感じてきたという。また、「いちご狩りやカレー作りの時と同じ席にいて仲良くなったグループ同士が、地元で家に呼び合ったりBBQをしたりと、イベント以降も連絡を取り合うようになったという嬉しい声も聞かれるそうだ。「私たちもイベント当日までは、試行錯誤の連続で不安でしたが、たくさんの方に協力いただいたおかげで何とか開催できましたし、アンケートの満足度も良好です。回を重ねるごとに、地元内はもちろん、おかげさまで他府県にも知られるイベントになってきました。これからもっと大きな、地域を上げたイベントにしていきたいですね。」と辰巳さんは意気込む。

イベントをきっかけに人が集まり地元全体が活気づく

元々地域貢献の一環として始めた婚活イベントだったが、当初の目的以外に別の効果も生み出しているという。「イベントがきっかけで、県内外の人に都祁の事を広く知っていただく良い機会になりました。今まで知らなかった人に一度でも都祁に足を運んでいただくだけでも大きな一歩です。また住民の方も、イベントをきっかけに地元のすばらしさを再認識したと言った声をたくさん頂きました。都祁の認知度をアップする意味でもこのイベントをやって良かったと思っています。その他にも、1回目のイベントの時には予算

ばという気持ちでいっぱいでした。このまま結婚しない男性が増えてどんどん過疎化していく地域を誰が守るんだ、自分たちがやらなくてどうするんだ、歳の近い青年部で集まったら何か面白いことができるんじゃないか? どうせするならば本気で何かしたかったんです。そこでメンバー数人で話し合った結果、だったら自分たちが出会いの場を提供したらいいんじゃないかと思ったのがきっかけです。」と辰巳さんは言う。

では具体的にどのような取組を行ったかというと、2016年5月にいちご狩り、2017年5月にカレー作り婚活を開催した。辰巳さんは、「イベントを企画するときにまず考えたのが、どうすれば気軽に参加していただけるイベントにできるかということでした。『婚活』と言うと、いきなり結婚相手を見つけないといけないのではと慎重に考えられる方も多いかと思いますが、そのような肩肘張ったものではなく、まずは出会いのきっかけとして気軽に参加していただけるようなイベントにしたかったのが第一にありました。一回目の婚活イベントでは女性に喜んでいただくために、いちご狩りにBBQやお土産もプラスした豪華な内容で臨みました。その結果、婚活以外の目的で参加される方もおられたのですが、ネットでの告知が中心だったにもかかわらず、他の市町村からの応募も多くて、まずイベントに参加してもらおうという意味では成功だったと思います」と話す。1回目の反省を踏まえ2回目のイベントでは年齢制限を外したり、前回のアンケートで多く上がったトークタイムの時間を増やすなどした結果、より本気度の高い方の参

も全然なく本当にしんどかったのですが、誰一人反対する人はいませんでした。逆にみんな盛り上げていこう! という気運が高まり、イベントを通じて青年部が一つになれました。青年部のこうした熱意が少しずつ周囲の人間を巻き込み、今では地域全体が活気づきかけになったという。回を重ねるごとに盛り上がりを見せるこの取り組みは、過疎で悩む地域の活性化・村おこしの成功事例として、今後も注目していきたい。



旧都祁村の風景

## 企業プロフィール

奈良東商工会青年部  
<http://www.shokokai.or.jp/50/293211S0004/index.htm>

<https://www.facebook.com/narahigashiss/>

奈良市都祁白石町1192-233

# 企業や団体が、地域を構成する一員としてできることから、結婚の希望を応援していくことが大切

地域を構成する一員であるという認識を持つこと。そして、自身や自社が結婚応援といった分野で何ができるのか。何を知っておく必要があるのか。ということを理解しておく必要があると思います。結婚応援という取り組みに対して、参画する方法は様々です。チラシの配布やポスターの貼りだしといった簡単な取組から、男性・女性それぞれの社員数に大きく偏りがあれば、異性となる社員を多く採用することによって、職場内の環境自体を変え、社員の意識に変化をもたらすといった取組事例まで。そのアプローチ方法は、その企業の風土や環境によって変化していきます。ただ、現実問題として企業や団体による結婚応援は非常に繊細な問題を多く含んでいます。個人情報、プライバシー、ライフスタイル、年齢・性別。結婚応援といった前

# 従業員等の結婚や子育てを応援し、企業の活性化や社会からの信頼の獲得を

少子化・非婚化が進んでいるのはなぜでしょうか？

「経済問題、マスメディアの情報発信、異質な他者と出会いにくい社会構造の文化」

まず挙げられる要因は経済問題ですが、統計を見ると、必ずしもそれが全てとは言えない部分もあります。私は、マスメディアなどが発信している情報や、日本全体に蔓延する不安感など、社会的・文化的背景も要因の一つと考えています。さらに、社会の構造の変化により、異質な他者と出会いにくい点も挙げられます。そういった中では、他人を受け入れることが難しくなります。結婚とは、自分とは違った考えや性質を持つ他人同士が生活を共にすることです。意欲が低下するのは必然と言えるでしょう。

今時の若者はどのような結婚観を持っているのですか？

「自分なりの婚活イメージの欠如、」

結婚応援を行う上で、企業・団体が取り組めることは？

「地域を構成する一員としての認識を持ち、自らできることを地域で行っていく」



Takayuki Okai  
奈良県立大学  
准教授

2014年より奈良県立大学地域創造学部専任講師。上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士後期課程単位取得退学。メディア論、文化社会学、スポーツ社会学を専門とし、メディア言説と社会や身体の変容をテーマに研究。ジェンダー、男性性の研究の一貫として非婚化の問題にも取り組み、奈良県内の婚活事業に有識者としても参画している。

「男女の役割分担についての固定的意識」

「草食化」「非恋愛化」などとメディアではよく言われていますが、社会学的視点からは、むしろ恋愛が中心という考え方や、大人になれば皆結婚する社会のほう有特殊です。若者たちは昔と変わらず恋愛を楽しんだり、時には悩んでいるように見えます。ただ、結婚観となると少し状況は異なります。現在の若者の多くは、結婚というもののモデルが自分の両親しかいません。自分なりの結婚に対するイメージが湧かないまま、少子化・非婚化のニュースを目にし、それを現実だと捉える傾向にあります。男女の役割についても同様です。最近、男女の役割分業を固定的に描いたCMが批判を受ける事案が相次いでいますが、このような旧来の家族の姿を理想像と考える学生が多いことに驚きます。家族には様々な形があるはずなのに、メディアが旧来どりの理想の家族ばかりを描き続けることで、若者たちもそれを当たり前だと素直に捉えているようです。

結婚の希望をかなえるために何が必要ですか？

「多様な人が交流できる場、多様な結婚や家族のあり方の発信」

先程も述べたとおり、若者が当たり前のように親しんでいるSNS空間においても、普段生活している社会においても、自分とは異なる趣味や嗜好を持った人と出会う機会が少なくなっています。昔ながら様々な人がそれぞれの目的で歩いていた場所も、買い物は向きなキーワードとは対照的なりスクも。ただ、だからといって何もしない。というスタンスではなく、自社、自身の特徴と地域の特性を掛け合わせながら、取り組んでいくことが非常に大事なことです。

結婚を応援するうえで必要な企業・団体の取組姿勢とは？

「地域や自身の特性を生かした取組で、地域貢献や地元活性化に繋げる」

結婚を応援する側は、応援される側の状況や気持ちに対しての理解も必要です。働き方や、ライフスタイルに伴う生活状況を知る事も重要なポイントです。例えば、いわゆる街の婚活イベントは土日開催される事が多いですが、全ての参加対象者が土日休みではなく、平日休みであったり、開催時間中は仕事であったり。決して若者がいないというわけではなく、変化していくそれぞれの生活状況を理解せずに一辺倒なアプローチを行うことで対応が行き届いていないのかもしれない。もしかすると、そういった人に向けた交流の場をつくるだけでも変化が出てくる可能性もあります。それが、その人達の生きがいや楽しみになっていけば、自然と次のイベントが企画されたり、集まる機会が設けられるかもしれません。また、応援する側としても地域や自身の特性・特徴を生かした関わり方をしていくことができれば地元経済との相乗効果も見込めるかと思えます。地元のレストランのオーナーであれば、婚活の場を提供することで、初めての出会いの場とし

ショッピングモール、子どもが遊ぶのは公園、といった目的に応じて利用する空間が固定されるあり方へと変化しています。もっといろんな考えを持った人が自由に交流できる場をつくるのが、これからの地域社会には必要だと考えています。男性は外で稼ぎ、女性は家を守るといったような、従来の理想像とされるものだけではなく、もっと多様な結婚のあり方、家族のあり方を発信していくことも大切です。他者を受け入れる気運を、積極的に促していくべきだと考えています。

民間企業や団体が結婚応援に取り組むメリットとは？

「社会からの信頼の獲得、人々の繋がりによる地域と企業の活性化」

結婚を強要されたり、プレッシャーがかかるような社会は心地よいとは言えませんが、結婚したい人を企業やNPO法人などの団体がバックアップしていくことは、もっと推進されるべきだと思います。社員の結婚や子育てを、会社をあげて祝福したり応援している企業がすでにあります。短期的には育児休業などで人員を割くなどのコストがかかったとしても、長期的には社会からの信頼を得られるのではないのでしょうか。家族や個人の描き方を従来とはガラリと変えたCMを流し、企業のイメージアップに繋がった事例もありません。企業や団体が新しい方針や家族のあり方を提案することで、社会を形づくる個人や家族に変化をもたらすでしょう。人々が自分の生き方に自信を持ち、連帯を深めることが、企業や地域の活性化にも繋がると思っています。

の想い出をつくることもできるし、靴屋さんならウォーキングイベントで街歩きなどのアプローチも考えられると思います。まずは地域貢献といった上段の形から入るのではなく、自分たちの出来ることを織り交ぜながら、それが結果的に地域貢献や地元活性化に繋がると考えていただければいいと思います。

企業が実際に取り組む際に考慮すべき、従業員に対してのアプローチの注意点

「コミュニケーションと情報交換を積極的に！」

結婚を応援するというアプローチは、やはり非常に繊細です。個々、それぞれで考え方や環境に違いがあり、枠組みやルールをそのまま適用しようとすると当然反発もあるでしょう。人によっては、婚活を秘密にしたい人もいますし、会社の外では会社の人と会いたくない人もいます。ですので、枠組みの中でやるうとせず、コミュニケーションを密にとりながら、情報交換を行う事で自社や個人に合ったアプローチを見つけることができると思います。応援する側もされる側も、社会や地域、そして人に、それぞれへの配慮を大事にしながら、進めていくことが何よりも大切なことです。そういった取組の姿勢が「結婚しやすい」「働きやすい」「子育てしやすい」といった地域社会をつくっていく気運を高めていくと思えます。



Yoko Yamoto  
全国地域結婚  
支援センター代表

1969年日本青年団協議会に入り、全国の青年団活動に関わる。1976年日本青年館に移り、1980年同館の結婚相談事業専任に。1984年同館結婚相談所長。2012年同館を退職し、全国地域結婚支援センターを設立、代表に就任。現在は結婚問題アドバイザーとして、自治体や女性、農業団体などを対象に講演活動をする他、自治体向けに結婚支援事業の企画・提案を手掛ける。



婚活イベント「そば打ち」を楽しむ参加者



職場の縁結びさん交流会のグループワークが婚活イベントを企画



そば打ち後には、お互いを知る場面も



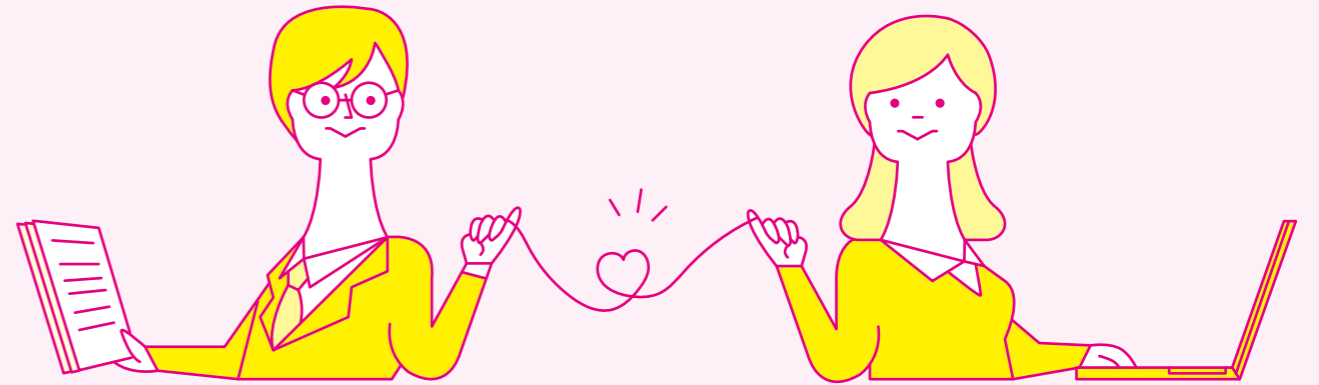
職場の縁結びさん交流会で主催イベントを紹介することも

# 婚活イベントとしての 企業交流会

福井県

職場のつながりを生かした縁結び

## 『職場の縁結びさん』



### 1 職場のつながりを生かした縁結び

結婚応援が積極的に実施されている県として挙げられる「福井県」。同県の取り組みのひとつとして「職場の縁結びさん」という制度がある。これは同県に「ふくい結婚応援企業」として登録した企業・団体のなかに『職場の縁結びさん』という応援役を担う担当者を置き、登録企業間で交流会の企画や、婚活イベントの情報提供を企業、団体内の担当者を行う取り組みである。従業員の結婚の希望を叶える職場づくりの体現を目的としている。

### 2 企業交流会が盛んにおこなわれる訳とは

「福井県は中小企業が多く、社内での出会いの機会は少ない。企業同士がつながることのできる機会が増えれば。」というのが、『職場の縁結びさん』や県担当者の声。「職場の縁結びさん」たちは、企業を超えて声を掛け合い、イベントや合コンの日時や場所のセッティングを行ってくれる。このようなイベントや合コンなら、会社を通じた紹介で

### 3 多くの実績と可能性の拡がり

「職場の縁結びさん」が中心となって企画されたイベントは平成28年度だけでも企業間交流会が39回、企業が開催する婚活イベントが9回それぞれ開催されている。また、この事業をきっかけとした成婚数も8件と着実に実績を積み上げていっており、今後もその成果が期待されている。

実際に開催されている企業間交流会では、異業種同士のマッチングが多い。そのメリットとして、「相手が地元企業でどんな会社かも分かるので、信頼、安心して参加できる」とことや「どんな会社か気になっていたのだから楽しかった」「違う業種・職種の人と話せ、人脈を広げる機会になること」などが挙げられる。また、企業・団体同士でのセッティングに

### 4 地域における結婚・企業の役割とは？

地域の企業や団体同士で、協力しあう事により、新しい形の出会いの提供だけでなく、福利厚生や、新しい働き方の提示といった職場環境の全体の改善、そして他社と交わる事で新たなビジネスチャンスの創造。それらが巡る事により、地域経済に還元され、よりよい組織づくり、よりよい街づくりにつながっていくのではないだろうか。

なっていることで、身元もしっかりしていて安心というメリットも。そのため企業間交流会などのイベントは、「安心して参加できる」「同じ県内の企業だから親近感がある」と、通常の出会いイベントなどと違いがあり、参加者には好評だそう。ふくい結婚応援企業に認定されている企業にとっても、従業員の結婚の後押しができ、地域や会社への定着化や、社員のモチベーション向上の一助となっているようだ。

また、普段接することのない他社・団体の社員同士の情報交換の場としても活用されていたり、新たなビジネスの芽が出たりすることも期待できる。



福井県の取り組みはこちらをチェック

ふくい婚活カフェ

<https://www.fukui-konkatsucafe.jp/index.php>